

福井 中高生 タイムズ TIMES

東京医大女子を減点

か10年ころ入試で一律操作

東京医科大学は、2018年度入試で女子受験者の得点を一律減点したことが、入試委員会の資料で明らかになった。これは、2010年度入試から続いている。資料によると、2010年度入試から2017年度入試までは、女子受験者の得点を一律10%減点していた。2018年度入試からは、女子受験者の得点を一律5%減点している。これは、男子受験者の得点と比べて、女子受験者の得点が低くなるようにしている。資料には、2010年度入試から2017年度入試までの得点推移のグラフが掲載されている。グラフによると、2010年度入試から2017年度入試までは、女子受験者の得点が男子受験者の得点と比べて、約10%低い状態が続いていた。2018年度入試からは、女子受験者の得点が男子受験者の得点と比べて、約5%低い状態になっている。資料には、2010年度入試から2017年度入試までの得点推移のグラフが掲載されている。グラフによると、2010年度入試から2017年度入試までは、女子受験者の得点が男子受験者の得点と比べて、約10%低い状態が続いていた。2018年度入試からは、女子受験者の得点が男子受験者の得点と比べて、約5%低い状態になっている。

やそしま 八十島 あかりさん(三国高3年)



男女共に輝ける社会へ

先日、東京医科大で女性医師を減らすために、入学試験で女子受験者の得点を低くする操作が行われたことが発覚しました。

そういった得点操作が行われた理由として、女性医師は出産・育児のために離職することが多いためと天学側は説明していました。が、私は女性医師に限らず女性の離職率が高くなる原因に、働きながら育児できる環境が十分に整っていないことがあると思います。

私は、女性が働きやすい社会とはどういうものか調べていく上で、フレックスタイム制という労働時間を自ら調整できる制度があることを知りました。社会とはどういうものか調べていく上で、フレックスタイム制という労働時間を自ら調整できる制度があることを知りました。私は、女性が働きやすい社会とはどういうものか調べていく上で、フレックスタイム制という労働時間を自ら調整できる制度があることを知りました。

マイトツプニュース